

5年ごとのオンプレミスサーバー更新を廃止

サーバーのクラウド化で
解放された時間・
人的リソースが
新たな価値を生む

はじめに

オンプレサーバー機器の性能劣化・入れ替え業務を一掃する クラウドサービス

リモートワークが特別な働き方でなくなった現在、ビジネスの現場では様々なクラウドサービスの導入が進んでいます。

企業に欠かせないITインフラのクラウド化にも多くのメリットがあります。導入時のイニシャルコスト、多大な運用管理コストや時間、人的リソースが削減できるばかりではありません。ITインフラをクラウド化することで、経年劣化による定期的なハードウェアの更新が不要となるのです。

そこで、社内サーバーをオンプレミス環境から、Oracle Cloud Infrastructure(OCI)によってクラウド化し、機器の入れ替えに伴う膨大な業務をゼロにした企業事例を紹介します。

社内サーバーのクラウド化を検討している方は、参考になさってください。

INDEX

| | |
|-------------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| オンプレサーバー機器の性能劣化・入れ替え業務を一掃するクラウドサービス | |
| 1. 導入の背景 | |
| 5年おきの機器入れ替えが大きな負担に | 4 |
| 課題1：オンプレサーバー入れ替え関連業務の簡素化 | 5 |
| 課題2：オンプレサーバーの保守・運用の負担 | 6 |
| 課題3：Oracle Databaseを活用できる環境の維持 | 7 |
| 2. OCI導入支援が選ばれた理由 | |
| 既存のデータベースを生かしたまま、スムーズなクラウド化が可能 | 9 |
| メリット1：オンプレサーバーの入れ替えを廃止できる | 10 |
| メリット2：Oracle Databaseライセンスを活用できる | 11 |
| メリット3：運用保守業務の負担を軽減できる | 12 |
| 3. 導入の効果 | |
| 効果1：リソースの有効化 | 14 |
| 効果2：運用保守業務の負担軽減 | 15 |
| 効果3：インフラ環境の向上による業務効率アップ | 16 |
| 効果ビフォーアフター | 17 |
| おわりに | 18 |
| 「オンプレ→クラウド」で、社内リソースを有効活用 | |